

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500271		
法人名	(株)ケア・コスモス		
事業所名	グループホームコスモス細谷		
所在地	群馬県太田市細谷町1343-1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が人のあたたかさを感じ、笑顔でいられるようなケアを目指し、支援をおこなっております。日常の中でもお客様のニーズに合うよう、食レクなどでは食べたい物を聞き取り、料理と一緒に作っております。また、令和3年度は、引き続きのコロナ過であるため外出自粛状況であるため敷地内の畑で家庭菜園をおこなったり、室内での制作レクを中心に活動をおこないました。「アロマキャンドル」「バッグの染物」「陶器の皿」「生け花」など、ご利用者様が自身で完成をイメージし手指を使い制作でき、尚且つ楽しめる物作りをコンセプトとしております。定例の会議ではご利用者様のカンファレンスも議題に取り入れ、ケアの方向性や職員の対応意識の統一性なども図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が安定した生活を送るには、家族とのつながりが欠かせない条件であることをふまえ、事業所は家族と協力できる関係性の維持に努めている。『利用者が自ら考え、作る活動』を通し、長引くコロナ禍でも意欲や楽しみが持てる様レクレーションを工夫している。生け花・ハーバリウム・アロマキャンドル・風鈴・染め物バッグ等、美しさや実用性・季節感を意識した作品作りに取り組んでいる。外出や外食も制限せざるを得ないため、お料理レクレーションでは利用者の希望を取り入れ、プランターで育てた野菜を使ったカレーやピザ・バイキング、クリスマスケーキなどを作り、利用者職員も一緒に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームコスモス細谷理念を職員が理解し実践につなげている。	玄関に理念を掲示し、利用者・職員・来訪者が理念を確認できるようにしている。新入職員には支援の基本は理念であることを説明し、意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	有料老人ホームにおけるコロナウイルス感染者の発生や面会制限の規制に伴い、交流の機会は少ない状況下にある。	法人の方針を基にコロナ感染防止を第一とし、地域との交流・慰問等の受け入れは中止している。対策をしたうえで散歩や年度の変わりの区長への挨拶は行っている。地域サークルで作られた雑巾は活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの認知症相談や、施設サービスの内容確認や見学案内、地域包括センターなどからの入居相談などが実績としてある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの流行に伴い市より運営推進会議の中止が続いているが、書面での運営状況や活動内容などをまとめ市役所や地域区長などに配布している。	運営推進会議は、2か月に1度書面開催をしている。ホームの状況やレクリエーション活動の様子をまとめた会議録は行政や区長等に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記に述べたように運営推進会議の書面開催とし配布、活動状況の把握や共有をしていただく。	行政には書面報告の他、担当窓口に出向き相談や報告を行っている。介護保険の更新手続きや認定調査の立ち合いも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月毎に、研修も年2回開催し身体拘束の理解及び知識の向上に勤めている。	職員は、3か月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。研修では、スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロックも項目に入れ理解を深めている。身体拘束に当たる行為を確認し、職員同士気づきあうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための指針を策定、身体拘束適正化委員会にてチェック機能・フィードバックをおこなう。スピーチロックや高齢者虐待の防止意識、向上を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護者の受け入れを数名しており、社会支援課の担当者と連携、定期訪問などの対応をとっている。社会福祉協議会の担当者と金銭管理のやり取りもおこない活用支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時より、施設のサービス内容や、料金説明などをし十分な説明をおこないながらアセスメント、ご本人・ご家族のニーズを聞き取り本契約に移行し、不安や疑問点を解消できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来館時など、随時管理者や職員がご家族からの要望をいただけるようにしている。こちらからのアプローチとしてコスモス通信などでアクティビティの報告をご家族に対してもおこない運営の把握をしていただけるアプローチをしている。	家族には利用料の請求書と一緒に便りを郵送し、体調や食欲などの近況を報告し、要望を確認している。利用者から出される要望は個人記録に記載し、職員が共有できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング会議のほかにも、問題があった時などは職員と話し合いの場を作り、相談助言がし易いような環境作りを行っている。レクなどの提案や前向きな意見がでる時はのびのびと出来るようサポートを行っている。	会議はその日の勤務者で行い、欠席者は議事録を確認している。会議やカンファレンスでは活発な意見交換ができており、管理者は職員同士がカバーしあう雰囲気ができていると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員との面談の機会を設け、業務の振り返りや目標の設定などをヒアリングしながら行いモチベーションの維持向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者に対しては介護マニュアルなどを用意し対応、また、スキルマップを管理者が作成し個人的な力量の可視化や助言に活用している。職員へは夏季冬季に情意評価として自己採点を		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に入会しており、同業者との研修や交流の機会があるが、昨年よりコロナ流行により参加交流ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時前のアセスメント情報をもとに、実際に入居されたご利用者様をみてコミュニケーションの中で傾聴をおこないニーズを聞き安心できるようなケアをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時など環境の変化に対応できる事が難しいのでコミュニケーションをとり、傾聴し要望を聞き取り、安心できる支援を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に聞き取りを行い、入居の妥当性の確認を行い、他のサービスを導入した実例なし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの家庭的である雰囲気を大切にしながら職員はご利用者様に自己決定ができるようアプローチしコミュニケーションをとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過でもあるが、面会解除期間などはご家族がご本人様と会えるような場を提供している、またご家族様にニーズを聞き取り、同じ方向を向きケアができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過における面会制限や外出自粛の環境下にありあまり出ていない。ご家族様に対しては毎月コスモス通信を郵送し施設内でのアクティビティの様子をお伝えしている。	朝の整容や化粧・髪染めなど習慣が継続できる支援とともに、携帯電話の操作支援やレクリエーションを通し好きな活動や得意な事を発見できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行や生活状態をミーティング時にカンファレンスをおこない適切な支援がその時々に来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠方のご家族様など、退去後のお部屋で使った家具類などの処分など、相談を受けた時にはご負担にならぬよう支援させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の様子やケア記録、家族からの話を聞いて、思いや要望を把握してケアに反映させている。	利用者の言葉を傾聴し、思いを受けとめている。夜間、利用者が眠れない時は一緒に過ごし、話を聞いている。家族には普段の様子を伝え、要望を確認しながら協力をお願いすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に相談員やご家族、医療ソーシャルワーカーより話を伺い、フェースシートにまとめて職員に周知させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報や経過記録、会議時に入居者のカンファレンスを行い、職員間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズを踏まえて、職員や関係者と連携して介護計画の作成や見直しを行っている。	モニタリングは毎月行っている。利用者や家族の意見、日頃の様子をふまえ、介護計画は4カ月～6か月ごとに見直している。	傾聴した利用者の思いを生かし、具体的な課題やニーズを計画に盛り込み、3カ月ごとに見直しをしてはいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や日常の生活記録をまとめて、毎月のモニタリングや3ヶ月毎に評価を行ないながら、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションや食レクを積極的に取り入れて、ニーズに応じた食事等の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントなどに以前は参加していたがコロナ過もあり今年は参加出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に嘱託医の説明をし、そのメリットやデメリットの判断、利用をご家族に選択していただいている。整形外科や眼科など嘱託医以外での受診が必要な場合は送迎や同行を含めご家族様と連携し支援をおこなっている。	受診について契約時に説明している。協力医は1人月2回の往診であるが、毎日来所しており、必要なことは指示が受けられる。歯科往診は必要時に受けられる。専門医受診は家族と協力し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常ケアをしている中でのご利用者様の身体・精神的変化を介護職員は観察し、必要性があると判断した場合は適宜看護師へ報告をおこない処置や通院の必要性を判断し支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご利用者様情報(バイタル・身長・体重・食事量・身体状況等)など病院の相談員とのやり取りや退院時の情報も円滑にできるように努めている。また、定期的に地域医療連携室に行き、相談員とのコミュニケーションを日頃から図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明をおこない先ずは方向性の確認をしている。終末期においてもその時の状況をご家族にお伝えしながら医療・介護・家族と連携し終末期における支援をおこなっている。	重度化や終末期の支援については、家族には契約時の説明と状況に応じた相談を行っている。今期も家族や関係機関と連携し、看取り支援を経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、ケアマネ、看護師への連絡先や緊急時フローチャートなどの掲示、コロナウイルス行動指針など掲示し有事の際になるべく慌てぬような対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(消防職員立ち合い)の他に水消火器を使用した消火訓練もおこない知識向上に役立っている。	今期は現在までに、昼想定で消防署立会いの総合訓練を1度実施した。避難場所や初期消火・パニックにならない避難行動の指摘を受けた。水や食品は3日分・排泄用品は適量を備蓄している。	消防署の指摘を受け、スムーズな避難誘導ができる様、自主訓練の実施を検討してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のご利用者様の性格傾向などを把握し、その人にあった声掛けや対応をするように心掛けをしている。	職員が利用者の生活歴や性格を正しく把握し支援しているかミーティングで確認している。利用者には強制しないことやテーブルや着座の位置等、好みを把握し見守りをしている。異性介助になる時は声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「何が食べたい」「何がやりたい」などご利用者様の希望を尊重し日常をすごしていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の残存機能やペースを大切にし食事の時間や入浴の時間などを臨機応変に対応している、ADLの低下したご利用者様には隣の有料老人ホームの寝台浴を午後を使用し入浴の機会を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症がり美容に関心のある利用者に対し化粧、毛染めなど行う支援を行っている。日々着る洋服も選んでいただく支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お料理レクリエーションでは、お料理の段取りを要所要所でご利用者様とおこない、ご利用者様の「出来る」という自信や満足感につなげている。日常の食事の後などは、テーブル拭きなど役割を設けている。	通常は隣接の事業所で作られた食事を運び提供している。おやつはホームで用意し、飲み物は選んでもらっている。レクリエーションやイベントでは希望を取り入れ一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や食事量の低下した方などの補助食品、また終末期におけるご本人が食べたい物などの用意などを介護スタッフがおこない、状況状態に合わせた支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施し、出来る方に関しては見守り、出来ない方は介助の上で支援している。訪問歯科による指導を毎月おこない、ポスターの掲示をし口腔ケアの意識向上を促すなど工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスを行った上で出来る事出来ない事を把握し、一人ひとりに適した声掛け時間での誘導を行っています。	排泄はトイレで支援する事を基本にしている。チェック表をもとに声掛け誘導をしている。利用者の希望でポータブルトイレを使用してもらったり、プライドを尊重した支援を心掛けています。消臭・清潔に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の便秘日数のモニタリングをおこない水分摂取や体操・散歩・階段の昇降などの運動にもつなげている。そのうえで出来ない場合は看護師に報告し処置をおこなう事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本決まっているが利用者の希望添えるよう午前午後臨機応変におこなう。機械浴が必要な利用者さまに対しては有料老人ホームにて支援をおこなっている。	入浴支援の時間等は決まっているが、決まりにとらわれることなく、入浴出来ることを知らせ支援している。できるだけ同性介助に配慮し、その都度声掛け確認をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を妨げないよう訪室しオムツ、パット交換、トイレ誘導を行い良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をもとに、朝・昼・夕・就寝前の薬を分けて服薬支援をおこなっている。薬の変更時などは看護師と連携をとりながら相互理解の中で間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	去年1年間では様々な制作物レクリエーションを企画し物作りをしていただいた、染物や陶芸など昔馴染みのある企画も職員が積極的におこないご利用者の喜びを見出す支援をしていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ過による外出自粛の為昨年に続き、本年度もほとんどできていない。	コロナ禍のため、外出は制限せざるを得ないが、菜園の水やりや隣接する建物で行われた青空マルシェには出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望を聞き食べ物や生活用品などの買い物等の支援を担当スタッフがやっている。自動販売機で自身で選び飲料水などを購入するご利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設電話は自由に利用できる、年賀状のやり取りや、欲しいものをご家族に連絡の上传え、購入してもらうなど、サポートが円滑にできようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節ごとの飾りつけ玄関に利用者様の作品を展示しご家族に見てもらえる用配慮している。コロナ禍において喚起を定期的におこなう。明るさに敏感な利用者様にはカーテンをし居心地のよい空間作りをしている。	壁には利用者が作成した大きなカレンダーがかけられている。各テーブルに食事のメニューが置かれている。感染対策として空気清浄機の活用や換気に努めている。利用者が居心地の良い場所を自ら選び過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	丸テーブルに置いて利用者様同士での会話など楽しんでいただけるよう配慮している。空いた場所に角テーブルを置き参加できない利用者様は職員とともに会話をする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	通年通し職員が利用者様に合わせた温度管理を行っている。使い慣れた家具の設置、季節にあつた衣類の交換などご家族に協力していただいている。	ベットとエアコンの他は、居室には利用者や家族が好みの物を揃えている。テレビや冷蔵庫・家具、整容のための三面鏡、日用品の他に、芸能人のポスターなども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており廊下には手すりを設置、入浴もリフトと一般浴を選び安全に考慮し生活がおくれるように配慮している。		

No.1 自己評価及び外部評価結果、評価結果(共通).xls の互換性 レポート

2022/1/31 9:32 に実行

このブックを以前のファイル形式で保存した場合、または以前のバージョンの Microsoft Excel で開いた場合、一覧表示されている機能は利用できなくなります。

再現性の低下

出現数

バージョン

選択したファイル形式でサポートされていない書式が、このブック内の一部のセルまたはスタイルに設定されています。このような書式は、選択したファイル形式で利用できる最も近い書式に変換され

8

Excel 97-2003

No.1 自己評価及び外部評価結果、評価結果(共通).xls の互換性 レポート

2022/1/31 11:31 に実行

このブックを以前のファイル形式で保存した場合、または以前のバージョンの Microsoft Excel で開いた場合、一覧表示されている機能は利用できなくなります。

再現性の低下

出現数

バージョン

選択したファイル形式でサポートされていない書式が、このブック内の一部のセルまたはスタイルに設定されています。このような書式は、選択したファイル形式で利用できる最も近い書式に変換され

8

Excel 97-2003